

| | | | | |
|----------------|----------------------|-----------------|------------------|--|
| 卒業研究 | | 演習 | 教授 田地野 幹雄 | |
| 科目カテゴリー | 国税ビジネス学科の必修科目 | 科目ナンバリング | 21300401 | |

1. テーマ

租税に関する諸問題の研究

2. ゼミのねらい・概要

3年次の専門ゼミで習得した基礎知識を用いて、各ゼミメンバーが各自の問題意識に基づく研究テーマに積極的に取り組むことを基本的なねらいとする。

また、卒業論文の作成を通じて、論理的な思考の方法を習得することを指導するが、それだけではなく、卒業した後、社会人になった際にも役立つ実践的な能力（タックス・リテラシーなど）も身に付けてもらうように指導したい。

3. ゼミ計画

ゼミ計画は、以下のとおりとするが、ゼミメンバーの問題意識や関心・興味等を見極めながら、適宜見直しを図る。

| | |
|--|--|
| <p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（履修指導など） 2. 卒業論文指導①（実際の卒業論文の紹介解説など） 3. 卒業論文指導②（テーマの選び方など） 4. 卒業論文指導③（構成の組み方など） 5. 卒業論文指導④（参考文献の選び方など） 6. 卒業論文指導⑤（図表などの表記のしかたなど） 7. 卒業論文指導⑥（結論の導き方など） 8. 卒論テーマの口頭発表①（学生3－4名） 9. 卒論テーマの口頭発表②（学生3－4名） 10. 卒論テーマの口頭発表③（学生3－4名） 11. 卒論テーマの口頭発表④（学生3－4名） 12. 卒論テーマの口頭発表⑤（学生3－4名） 13. 卒論テーマの口頭発表⑥（学生3－4名） 14. 卒論テーマの口頭発表⑦（学生3－4名） 15. 前期まとめ（後期に向けた学修計画作成など） | <p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（卒論完成に向けた計画作成など） 2. 卒業論文の中間発表①（学生3－4名） 3. 卒業論文の中間発表②（学生3－4名） 4. 卒業論文の中間発表③（学生3－4名） 5. 卒業論文の中間発表④（学生3－4名） 6. 卒業論文の中間発表⑤（学生3－4名） 7. 卒業論文の中間発表⑥（学生3－4名） 8. プレゼンテーション方法の解説 9. 卒業論文の最終発表①（学生3－4名） 10. 卒論論文の最終発表②（学生3－4名） 11. 卒業論文の最終発表③（学生3－4名） 12. 卒業論文の最終発表④（学生3－4名） 13. 卒業論文の最終発表⑤（学生3－4名） 14. 卒業論文の最終発表⑥（学生3－4名） 15. まとめ（卒業後の心構えなど） |
|--|--|

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

①各自が取り組んでいる研究テーマに関する知識習得・分析考察の計画的な実施に加えて、②ゼミ時間における研究進捗の口頭発表、中間発表および最終発表に向けた準備を行う。なお、①の実施には週2時間以上必要で、②の実施には、発表時への事前準備として3時間以上必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

研究進捗の口頭発表、中間発表および最終発表の際、個別に講評（不足している点や今後取り組むべき点など）をコメントする。また、卒業論文を提出した後も、個別に講評（残された課題や今後進むべき方向性など）をコメントする。

なお、コメントの通知方法については事前に連絡する。

6. ゼミにおける学修の到達目標

卒業論文の作成のやり方を理解して、自分の意見や考え方を卒業論文として論理的にまとめられる。

7. 成績評価の方法・基準

卒業論文の内容（60％）およびゼミに対する取組み姿勢（40％）。

8. テキスト・参考文献

各自の研究テーマに必要と思われる文献などを個別に指示する。

[参考文献] 金子宏『租税法（最新版）』（弘文堂）

9. 受講上の留意事項

研究テーマは租税に関するものであれば広範に認めるが、法令・学説・判例研究を中心とする租税法学からのアプローチによる論文作成を推奨する。また、ゼミに積極的に参加していく姿勢を期待する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本ゼミは、国税庁における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。